

日本水工設計

効果的経営施策を展開

日本初の 認証取得 ISO 4規格統合

日本水工設計(藤木修社長は、四つの取得済ISOマネジメントシステム(MS)規格について、一つのシステムとして運用する「統合MS」の認証を取得した。統合したのはISO9001(品質MS)、14001(環境MS)、27001(情報セキュリティMS)、55001(アセットMS)で、アセットMSを含む4規格の統合、認証取得は日本初。8日には登録証授与式が同社で開かれ、藤木社長が登録証を受け取った。



登録証を受け取る藤木社長(右)

日本水工設計では取得した4規格を活用して経営改善に取り組んできており、複数のMSを一体的に運用するため独自の工夫を行っていた。今回、アセットMSを中核に統合化することで全体の仕組み、運用管理を簡素化・最適化し、今後の効果的な経営施策の展開や事業の効率化に生かしていく。

藤木社長は「上下水道は成熟期に入り、既存施設の維持管理・再構築だけでなく、持続可能な経営・組織運営も課題となっている。その中ではアセットマネジメントが重要になる」とし、アセットMSを柱に品質、環境、情報の観点を統合することが有効だと強調した。その上で「ISO55001は長期的なコスト、リスク、パフォーマンスのバランスに重点を置いており、民間経営にも適した規格」と指摘、「統合MSを生かし、当社の仕事・ノウハウを拡充していくことが必要になる」と展望した。

ISO9001、14001、27001などのMS規格は、各分野の専門委員会が分野ごとに最適化を目指して開発し

たもので、発行時期、規格構成、用語などが異なるため、複数MSを適用する企業では運用が煩雑になる、個々に運用しているなどの課題があった。

これを受け、ISOでは平成18(2006)年23年にかけてMS規格の整合性を図り、共通の要求事項、用語、定義を開発した。27年にはISO9001、14001が共通の枠組みに改められ、すでに整合化されていた同27001、55001と構造が同じとなり、統合運用が可能になっていった。

授与式では、日本環境認証機構(立上和男社長)が藤木社長に登録証を渡すとともに、世界的な動向を先取りした国内初の取組みとして評価、今後の展開に期待した。